

子どもの安全を見守る意見交換会

一昨日、吉敷地域ふれあいネットワーク協議会が主催の意見交換会がありました。

地域内にはたくさんの団体がそれぞれに子ども達の安全を見守る取組をされており、連携を強めて取組を強化していこうとの目的で初めて開かれました。

会議で出された意見です。



○交通立哨の方々の高齢化に強い危機感がある。新たな方の参加が大きな課題であるが、大変厳しい。

○ながら見守りは大変有効な取組。もう少し、地域の方が外に出てきてくれるとよい。

○ながら見守りは地域住民同士のつながりを再構築する取組。是非、進めていきたい。

○老人会は組織率が1割しかない。より多くの方が参加し、子ども達の心の支えになりたい。

○SNS問題は大変大きな問題。子どもはもちろんだが、その前に保護者自身の教育が必要。

○放課後児童クラブの下校時の見守りも課題。ながら見守りの強化に期待したい。

○子ども110番の家の数を増やすため、これから新たに依頼していく。

○子ども110番の家の認知度を一層高める必要がある。特に、110番の家の住民の役目について再確認したい。

○赤田の水路（赤田セブンイレブン前からガソリンスタンドの裏を流れる水路）の防護柵は、自治会から要望していく。

○木崎交差点から出雲大社神社までの道路

の一方通行化について、地元からの要望書を近日、警察署に提出する。

多くの意見が出ましたが、この会議により、かけ声だけではなく、各団体が実現に向けて具体的に行動を起こしてこそ改善が進みます。本校も安全教育、安全管理について一層取り組んでいきましょう。

この会議で、本校からは本校の現状と課題について以下のようなことを話しました。

1 現状と課題

(1) 交通安全・生活安全(防犯)

○見守り活動の充実、ながら見守りの増加、地域による交通安全教室、引き渡し訓練への支援

△見守り活動を行っていただいている方々の高齢化と次世代の参加不足

△下校時の見守り

△特に危険を感じる箇所：正門前（登校時の通行制限）／JA先の三叉路／センター前（通園バスへの送迎車）

△児童が自らの命を守る安全意識の高揚（「大切な心と体を自ら守る」）

(2) 災害安全

○吉敷だからこそその災害対応避難訓練、車両による保護者引き渡し訓練

△学校における災害対応学習の不足

・吉敷の災害（洪水・土砂災害・活断層地震）対応
・津波対応

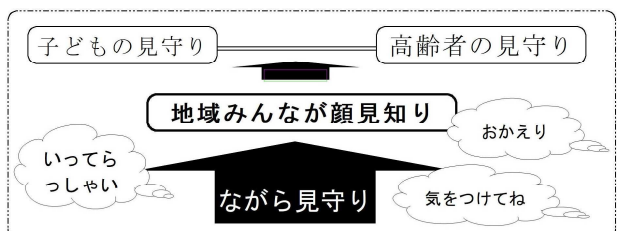
△大雨対応避難（引き渡し）時の学校支援

△中学校・地域との連携

△用水路の安全対策（赤田セブン前の水路等）

2 今後の取組

(1) ながら見守りがあふれるまちに



(2) 地域の安全学習／地域で安全学習

「小学校での安全マップづくり・防災学習・地域合同避難訓練」に地域の参加・参画をお願いしたい。